

事業名 **長寿大学**

趣 旨 老年期にふさわしい社会的能力を培い、自主的生活の維持と世代との融合に努力し、生きがいのある生涯のために学習を進める。

実施主体 神林村教育委員会 生涯学習課

参加対象 60歳以上

参加者数 100人

回 数 年10回 日 数 年10日 時 間 1回につき1時間20分程度

場 所 神林村総合体育館内柔剣道場、アリーナ

内 容 (10回のうちの2回)

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	7月18日(水)	「子どもの育ちと、お年寄りの役割」	村上市教育支援センター 主任指導員 渡邊 顯
	内容・方法	家庭や地域で子どもたちとの関わり方に戸惑っている高齢者に、ちょっとアドバイス。今の子どもたちが抱える問題や、家族のあり方について、講師ご自身の経験や、事例をユーモアを交えながら楽しくわかりやすく講話していただいた。受講者からは、とても好評でリクエストが多かった。	
2	9月14日(金)	子どもと一緒に考える人権・いじめ	劇団 プレイバックーズ
	内容・方法	友達同士、家族の会話の中にごく普通に飛び出る他人に対する無神経な言葉、それは人権への意識の低さからきているのかも。子どもがその言葉に深く傷ついている人がいるとしたら？参加者の生の声を題材に即興劇にしたり鑑賞する機会を提供した。参加者は自らが人権について考え、子どもたちの心を理解するきっかけとしてもらう。 青少年育成村民会議、福祉課とのタイアップにより、村内小学5～6年生、中学生全員、さらに一般住民にも案内し演劇鑑賞をした。参加者数 約600人	

成 果 ・ 第1回目で、子どもとの関わりや家族のあり方に戸惑いを持つお年寄りに、子どもが育つためには家族が育つことが必要。みんなで成長する家族を作るには、お年寄りの存在は大きい。と家族の大切さやその中でのお年寄りの役割を学び、第2回目では家族またはそれより少し大きな社会の中で、子どもが感じていることや悩みなど、演劇をして自分のこととして感じ、子どもたちの理解につながったと思う。

課 題 ・ 第2回目について、子供とお年寄りとの交流を図りながらお互いを理解する、尊重する(人権について学習する)目的で初めての試みとして実施したが、参加人数が多すぎたこと、時間的制約があったことにより有意義な交流が図れなかった。また、演劇スタイルが田舎の高齢者には馴染まなかったこと。異なる世代が相互理解するためには時間がかかる。単発の講座で終わらず、テーマを設け継続的、段階的な展開が重要と考える。また、受講者の自発的な活動を促す工夫も今後の課題としたい。

問合せ先 神林村生涯学習課社会教育係(担当 鈴木美宝) TEL: 0254-66-8111